

# 2024年度 第2回一橋大学政策フォーラム

HITOTSUBASHI 150th

一橋大学は2025年に  
創立150周年を迎えます。

## AIデータサイエンスの展開 テクノロジーから社会変革へ

# 産業応用や法的課題に焦点

2024年12月20日、「AIデータサイエンスの展開：テクノロジーから社会変革へ」をテーマにした2024年度第2回一橋大学政策フォーラムを開催された。フォーラムにはAIの開発・活用に携わる専門家が登壇。先端技術の動向やその産業への応用、規制・法的課題などについて多角的に議論した。モデレーターは、一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科特任講師の佐野仁美氏が務めた。



＜モデレーター＞  
一橋大学大学院  
ソーシャル・データサイエンス研究科  
特任講師

佐野 仁美氏

### 開会の挨拶

一橋大学大学院  
ソーシャル・データサイエンス研究科長  
渡部 敏明氏

## 文理共創の学部・研究科



一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部・研究科は2023年4月に新設された。本学が伝統的に強みを持つ社

会科学と先進的なデータサイエンスを融合することで、社会やビジネスの課題解決に貢献する。文理共創の学部・研究科の誕生は、本学にとって歴史的な出来事だ。

25年4月には博士課程がスタートする。学部、修士、博士課程がすべてそろって一橋大学150周年を迎えられるのはうれしい。

### 基調講演①



(株)Preferred Networks  
共同創業者、  
代表取締役  
最高研究責任者

岡野原 大輔氏

プリファードネットワークスグループはAIチップの開発や計算基盤の構築、生成AI基盤モデルの開発などに取組み、競争力の高いAI技術の産業応用を進めている。フロント自動運転の研究開発や産業用ロボットの知能化、創薬など活用領域は幅広い。経済産業省「新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)」の支援を受けて開発した国産の大規模言語モデル(LLM)「PLaMo(プラモ)」は、海外の有効なLLMをしのぐ日本語性能を達成している。商用版「PLaMo Prime」の提供を始め、徐々に利用が進んでいる。

## 国産の大規模言語モデル

このようにAI技術は実際の業務や生活に使われ始めている。人手不足の解決や様々なニーズに応えるサービスの開発に期待がかかる。

### 基調講演②



損害保険ジャパン(株)  
執行役員  
Chief Data Officer /  
データドリブン  
経営推進部長

村上 明子氏

当社は損害保険会社として事故や災害の被害者に寄り添うため、人とデジタルのハイブリッドによる業務の効率化・高度化を進めている。例えば企業向け保険の引き受け判断では、保険料の見積もりに必要な情報を航空写真やオンラインデータから自動的に収集し、AIで精査している。AIでは難しい作業も効率化・高度化できる。

## 安全確保しフル活用

日本政府はAIの安全性に関する評価手法や基準の検討・推進を行う組織として「AIセーフティ・インスティテュート(AISI)」を設立した。関係省庁・機関、企業・団体、海外機関と連携しながら活動していく。

規制はブレーキではなく、進むべき道を示すガイドレールだ。それがあるからこそ、思い切りアクセルを踏んでフル活用できる。

AIデータの活用には人材育成も欠かせない。大学の役割に期待したい。

### パネルディスカッション

## 変わり続けられる「人」育成

七文 今後の技術開発のポインとは、どのように優位性をつくるか。

岡野原 日本は課題を念頭に置いて開発したい。例えば各社の膨大な手書きデータなどをLLMで解析すれば、商品開発力の強化などにつなげられる可能性がある。そのため、自社専用のAIモデルを構築・運用するための基盤も必要になる。

小町 これまで各部署が得意な業務に蓄積していたデータをAIで使える形にしておくことが大事だ。私はこれを「AIレディなデータ」と呼んでいる。データを見る能力と応用を考えると、長い目で見て人々が日常的に生活や仕事で使うようなアプリケーションが登場するかがポイントだ。課題は、大企業には多くのデータがある。グローバルに通用するサービスを開発できるかが勝負だ。

七文 AIに関するルールづくりの現状について。

生員 これまでAIは情報を処理する機械だった。その法的リスクは製品の安全性や雇用・融資などで差別をしないようにすることなどが中心だった。生成AIの登場により、学習データの公表や生成コンテンツの判別可能性が課題となっている。

小町 本学は学部間の垣根が低く、複数の視点を在学中に身に付けられる。留学生も多い。自分と異なる価値観や文化を肌で感じる機会を通じて、自分の価値観や行動様式を不断にアップデートできるようなことが大事だ。

生員 文系の学生も最新の技術を勉強する必要がある。そして、ルールづくりに主体的に関われる「人」を育てることが重要だ。

七文 一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部・研究科への期待を。

岡野原 文理融合で全体観を持つ人材を育てる良い試みだと思ふ。社会に出てからも学び、変化を続けて、変革をリードできるような人を育ててほしい。

村上 大学で学んだ考え方や方法論は一生の武器になると思ふ。今後、AIによって言葉の壁はさらに低くなる。世界の中で自分の意見を主張し、交渉できる人材を出してほしい。

### パネリスト



一橋大学大学院  
ソーシャル・データサイエンス  
研究科 教授

小町 守氏



一橋大学大学院  
法学研究科  
ビジネスロー専攻 教授

生員 直人氏

岡野原 大輔氏

### コーディネーター



一橋大学大学院  
ソーシャル・データサイエンス  
研究科 教授

七文 直弘氏

### 開会の挨拶

一橋大学学長  
中野 聡氏

## 時には立ち止まって議論を



せるように生成AIの大きな波が来た。新学部・研究科は我々の意図を超えるような役割、可能性、ミッションを帯びるようになってきた。AIの進化は日進月歩で、アップデートに次ぐアップデートが必要だ。だからこそ、時には立ち止まってじっくり考え、話し合うことも必要なのではないか。